

■現状認識

社会環境の変化

1. 深刻な経済不況
2. 非正規労働者の増加
3. 有効求人倍率の低下と失業者の増加
4. 高齢化の進行と少子化
5. 地方分権の推進と財政悪化
6. グローバル化
7. ボーダーレス化
8. 環境問題の深刻化と健康不安

地域の現状

1. 人口減少の進行（17000 人に）
2. 高齢化（高齢化率 37%以上）
3. 交通基盤の弱体化（鉄道の廃線）
4. 基幹産業の縮小（農林水産、建設、商業、観光）
5. 新たな特産品開発が進む（能登大納言、大浜大豆、塩田の塩、他）
6. 女性、若者の活躍が目立つ（二三味珈琲、典座、古川商店、メルヘン日進堂、舟あそび、大野）

里山里海の現状

1. 里山里海自然学校設置以降、保全活動が継続されている
2. キノコが出てくるようになる
3. 保全活動に地域住民が積極的に参加
4. 里山マイスター養成講座が継続的に行われている
5. 里山マイスターが地域で活躍しはじめている
6. 里海への取り組みが弱い
7. 環境配慮型（生物多様性に配慮した）産業育成はまだみだである

■当面する課題と目標

当面する課題

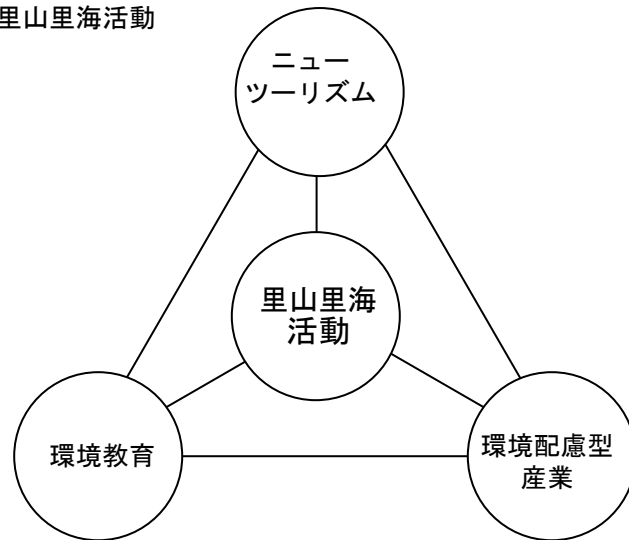
- ◆里山里海のビジョン構築
珠洲の里山里海の将来ビジョンを描き共有すること
- ◆里山里海活用事業の構想
里山里海での具体的事業を自ら構想すること
- ◆里山里海事業に担い手育成
里山里海をフィールドに活躍する担い手を育成（誘致）する
- ◆里山情報の発信
珠洲の里山里海情報の集約、発信を継続的に行う
- ◆里山里海ネットワークの形成
全国的な里山里海ネットワークを構築し、事業を実施しやすくする

目標設定

里山里海の活動を 目的に訪れる地域へ

里山里海活動を目的に訪ねていただける地域を目指す

◆里山里海活動



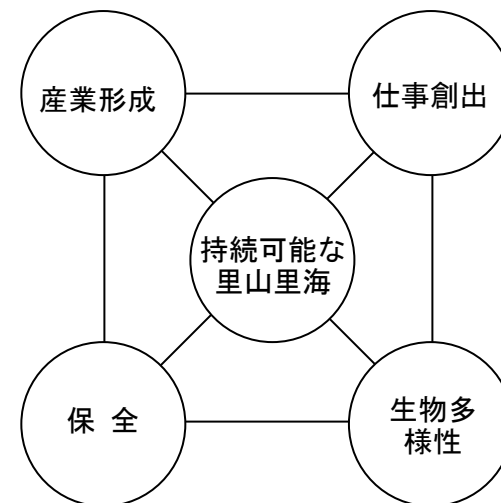
■基本コンセプトの設定



基本方針

- ◆保全と活用のバランス
- ◆業として関われる仕組みづくり
- ◆担い手育成を子どもの時から
- ◆情報発信の強化

◆持続可能な里山里海



■事業の構成

■継続的な保全活動
里山里海の保全活動を継続的にを行い、広く参加者を全国から募る

- ・里山保全活動
- ・里海保全活動

タイアップ企業や団体等の発掘を進める

■活用プログラム開発
里山里海を活かしたプログラム開発を産学官、農商工連携、医商工連携等の観点から進める

- ・環境教育プログラム
- ・エコツーリズム
- ・ヘルスツーリズム
- ・グリーンツーリズム

■仕事創出
専属スタッフを雇用できるような事業体にする

- ・環境教育（学校教育から大人まで）
- ・調査、計画づくり
- ・飲食事業（へんざいもんから独立店舗へ）
- ・里山里海商品の販売
- ・ツーリズム商品

■担い手育成
担い手育成を持続的に進める

- ・学校教育の中の環境教育
- ・先生のための環境教育
- ・大人のための環境教育
- ・ファミリーのための環境教育
- ・インタープリター養成講座等の受講

■情報発信の強化
ネットと印刷物を連動させて、情報発信を継続的に行う

- ・ネット上に里山里海に関する情報を蓄積していく
- ・珠洲の里山里海マップの継続的な作成
- ・里山里海新書（文庫）等の発行